

Contents

はじめに	3
推薦のことば	4

Chapter

1

どのような歯科医師になりたいか？ 臨床現場での心構え

1. 指導者の立場から 好きこそ物の上手なれ!! (栗原 仁)	12
2. 若手(臨床歴：0～10年，歯科学生)の立場から	18
患者さんと喜びを分かち合える歯科医師に！(小林徳子)	18
患者さんのライフステージに合った治療を提案したい(工藤健一郎)	19
包括的歯科治療ができるように！(磯崎祐太)	20
患者さんに最良の治療の選択肢を提示し，笑顔になっていただけるように！(坂田一道)	21
3. 中堅の立場から	22
一口腔単位の包括的な歯科医療ができる歯科医師に！(山中千里)	22
自分もスタッフも患者さんも，社会全体も幸せを感じられる歯科医療を！(佐藤昌徳)	23
患者さん自身に一番よい選択をしてもらえる環境を提供したい(栗原律子)	24
患者さんやスタッフとコミュニケーションが取れて，信念を持った歯科医師に！(矢田航也)	25
私の医院で口腔管理をしている子どもに歯科医師になってもらえるように！(田村太一)	26
小児から年配の患者さんまでみられるオールラウンドGPになりたい(金子祥子)	27

はじめに	30
1. 「過去の推測」から「未来の予測」へ	32
2. 過去の検査 7 項目 (各論)	33
① 顎関節の変形 (過去の習癖)	33
② 犬歯のファセット (過去の習癖)	37
③ 正中のズレ (過去の習癖)	39
④ 左右の筋肉量 (過去の習癖)	40
⑤ 補綴装置の装着時期 (過去の歯科既往歴)	42
⑥ 根管治療時期 (過去の歯科既往歴)	44
⑦ 欠損した時期 (過去の歯科既往歴)	45
3. 治療計画とは	47
① 1 つめ：治療の術式とは？	47
② 2 つめ：治療順序とは？	48
4. 治療計画における「治療順序」について	56
① 初期治療：抜歯部位の選択 (1 回目)	57
② 初期治療：不良補綴装置の除去	58
③ 初期治療：咬合高径治療 (1 回目, 仮義歯)	59
④ 初期治療：根管治療	62
⑤ 初期治療：抜歯部位の選択 (2 回目)	63
⑥ 積極的治療：歯周外科治療 (1 回目)	64
⑦ 積極的治療：欠損治療 (インプラント, 仮義歯)	64
⑧ 積極的治療：歯周外科治療 (2 回目)	65
⑨ 積極的治療：咬合治療 (2 回目)・矯正 (仮義歯)	66
COLUMN 初期治療・積極的治療の治療手順を間違えた際の失敗の可能性と 例外的パターン	67
⑩ 補綴治療：下顎補綴装置	68

⑪補綴治療：咬合の確認	70
⑫補綴治療：上顎補綴装置	70
⑬補綴治療：咬合の確認	71
⑭補綴治療：バイトプレート(BP)・メンテナンス	72
治療順序①～⑭のまとめ	73
5. 本章のまとめ	74
長期的な予後をめざすための治療計画	74
アナログからデジタルの時代について	74

Chapter

3

**なぜ治療計画に17項目が重要か？
臨床の幹：3領域(現状の検査17項目)**

はじめに	76
1. 臨床の幹：咬合治療(咬合の5大要素)	77
①咬合：顎頭安定位	77
②咬合：咬合高径	83
③咬合：側方運動	87
④咬合：前方運動	90
⑤咬合：咬合平面	92
2. 臨床の幹：ペリオ	95
①ペリオ：深い歯周ポケット	95
②ペリオ：骨の形態異常	97
③ペリオ：根分岐部病変	98
④ペリオ：歯肉-歯槽粘膜の問題	99
⑤ペリオ：欠損部歯槽堤の形態異常	100
⑥ペリオ：歯肉縁下う蝕	102
⑦ペリオ：歯の位置異常	104

3. 臨床の幹：エンド	105
① エンド：根尖病変	105
② エンド：不良根管充填	106
③ エンド：エンド-ペリオ病変	107
④ エンド：歯根破折	107
⑤ エンド：不良コア	108
4. 臨床の幹：3領域(現状の検査17項目)のまとめ	109
治療計画，難易度表からみた年齢	109

3領域(現状の検査17項目)を臨床応用したケースから学ぶ

C A S E 1 全顎的に崩壊している口腔内への対応	115
治療計画・治療順序の重要性	116
C A S E 2 咬合が不安定で，LGTP=CLPで治療前に バイトプレートが必要な症例	123
0 stageの重要性	125
C A S E 3 咬合力の強い症例： 患者さん主導から術者主導へ切り替えたケース	131
現状の検査17項目の問題点を伝える重要性	133
C A S E 4 咬合の問題を抱えた若年性歯周炎 (限局型侵襲性歯周炎ステージIV，グレードC)	138
前方運動時臼歯離開の重要性	140
C A S E 5 局所的な治療を繰り返し補綴装置が壊れた症例	144
プロビジョナルレストレーションの重要性	147
C A S E 6 下顎位のズレ	156
治療計画・治療順序表の使用方法①	157
C A S E 7 咬合高径の低下①	160
治療計画・治療手順表の使用方法②	161

C A S E 8	咬合高径の低下②	165
	未来の予測(交渉学と難易度表)の使用方法.....	166
C A S E 9	長期症例から学ぶ顎頭安定位	170
	顎頭安定位の調整方法.....	171
C A S E 10	不安定な下顎位の模索症例	176
	1 stageの問題点.....	177
C A S E 11	ストレスと歯の関係	181
	2 stageの問題点.....	182

Chapter

5

**患者さんのための交渉学， 歯科医師の
ための交渉術とは？**

1. 情報スピードの変化で変わる歯科医院経営	186
2. 歯科医院経営に必要なポイント	187
①技術・マーケティング・マネジメント.....	187
②インプットだけでなくアウトプット能力が重要.....	190
③アウトプットに不可欠な患者さんのための交渉学.....	191
④交渉学の基本原則.....	193
3. 本章のまとめ	208
おわりに.....	211
索引.....	212